

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	175800200		
法人名	有限会社福音の家		
事業所名	グループホーム福音の家		
所在地	北海道空知郡南幌町元町4丁目3番14号		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成27年8月4日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 7 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人員体制が昼夜共に余裕のある配置を敷いています。利用者様の外出や通院など個別対応を可能としています。災害に対しても発電機や災害用品・備蓄等万全の対策をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特色として、住宅改造型のホームに家庭的な雰囲気が玄関、居間、食堂、厨房、陽だまりの廊下などに満ちています。シフトに十分な余裕を有する職員の利用者への自立を支える暮らしが、切れ目なく営々として継続されています。冬季間には施設長がボランティアで重機除雪をして地域の生活道路確保を担い、住民から喜ばれ絆の強化に繋がっています。また、災害に対する備えの充実が挙げられます。非常口周辺のロードヒーティングと車椅子を想定した傾斜板の備え、一週間分の非常食備蓄、また発電機装置、避難時に着用のヘルメットなど、幾多の想定を基に対応が行われています。ホームでは栄養士1名、調理師3名の有資格者による味付けや彩りに優れた献立や調理で食事が提供され、利用者にとって毎日の食事は大きな楽しみとなっています。利用者の持てる身体能力の持続を支援するため、できることは利用者の手でやらせようことをモットーに実践が行われています。厨房では男性の利用者も積極的に食器洗いに参加、マージャン卓を囲む楽しみ、カラオケなど暮らしに変化を創出する支援が継続されています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・介護理念共にスタッフ全員で共有し、毎朝唱和しております。	「尊厳をもって敬愛され、平安で静かな一生を過ごす権利」を謳う基本理念、また、「望ましい適切なケア環境の創出をしながら穏やかな生活を支援する」介護理念を、職員は毎日のミーティングで確認をしながら、共有化が図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や近隣学校の行事、中学生の職場体験実習の受け入れ、重機による除雪の地域貢献、交流をしております。	冬季間には、ホームの重機による町内の除雪作業への貢献で近隣住民との繋がりが強化されているほか、町内行事への積極参加や中学生の職場体験実習を受け入れ、お年寄りの介護を体験してもらうなど温かな交流が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内部、外部研修などで認知症を理解しています。地域相談もっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施しており、現状・活動報告・外部評価の結果等について話し合っております。	地域住民の代表、民生委員、町の保健福祉課職員、家族で構成された運営推進会議が2か月毎に開催され、ホームの現況報告や当面する課題などが報告され質疑が交わされています。会議の議事録は毎回家族のもとへ送付されています。	運営推進会議に少しでも多くの家族などの出席を頂きホームへの理解を深めるため、議事録の詳細記入をするなど改善への取り組みが望まれます。また、タイムリーな話題を提供しながら意見交換に資するなど斬新さも望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営委推進会議にも出席していただいております。利用者の方々や地域の情報を伝え助言をいただいております。	町の担当者とは、運営推進会議のメンバーとして毎回出席を頂きながら情報の共有を図っているほか、生活保護の具体的な対応など常に連携を密にした協力関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外していません。研修等で身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアをしております。	身体拘束をしないケア及び虐待防止について、新たに採用された職員の研修では必修課題としているほか、ミーティングに際して職員全員で確認をしながら適正なサービスに反映されています。玄関の施錠は夜間のみしていますが昼間は常に開放されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修等で理解を深めスタッフ全員で防止につとめております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修はおこなっておりますが、利用されている入居者様が少ないのでスタッフの理解は足りない状態です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談及び契約の際に十分な説明を行い理解されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時やかわら版での経過報告、相談対応、意見を伺っている。	家族の意見等を表せる機会として、毎月の利用料を窓口持参にしてもらうほか、アンケートによる意見の聴取も行っています。また、利用者の暮らしが覗える写真満載の「かわら版」を毎月作成し家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの意見交換の時間や必要に応じ機会を設けてくれています。	職員の意見や提案は、毎朝のミーティングで行われるほか、パソコンのメールを利用しています。勤務のシフトも職員間の話し合いで決められており、管理者はこれら職員の自発的な作業を尊重しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や学習の場を用意しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修を受ける場を与えてくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他のグループホームの職員等の見学の受け入れ、他のグループホームへの見学。交流の場があります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭訪問や昼食のお誘い等で入居前から繋がりを作っています。入居後は安心感を持てる様個別対応でスタッフや他者との関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時情報交換をしながら関係づくりをおこなっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日や入居時間の調整、当日の食事を共にしたり、本人が安心できる様子を家族が理解できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人が得意とする分野について助言やお手伝いをしてもらうなど、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ家族と面談をおこなったり、電話連絡やご家族と一緒に外出支援も行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・縁者の訪問を招いたり、お墓参りや自宅へ行く等の支援を行っています。	年間の行事として賑やかに開催されるクリスマスパーティや誕生会、また冬季の雪祭り見物など馴染みのイベント参加のほか、墓参り、初詣など利用者の希望を取り入れた馴染みの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、相手の思いを伝えたり、関係構築の支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者のご家族が礼拝に参加されたり、相談支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状況に応じた意向の把握に努め、ご家族の意向も含めきめ細かい対応に努めています。	利用者の思い、意向や希望は、ささやかな事柄でも即座に対応することで職員との絆が深まるものと考え、日々の暮らしの中で実践しています。また、職員間での情報の共有をきめ細かく行うことで継続した支援を可能としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からのお話や、アセスメントシートを活用し、より具体的な把握が出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やスタッフ間でも一緒に話しあいながら現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者の心身の変化に応じた現状に即したケアプランを作成するようにスタッフ間で話し合い、家族の意向を含めて計画作成しています。	利用者の思い、意向や希望は、ケアプランの中に反映され、職員の日々のサービス提供と支援に繋がっています。家族の意向はなかなか把握し得ない状況にあり、今後も時間をかけて意向把握に努めたいと考えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録の欄にケアプランに基づき実践した事を記入し、介護計画や変更の計画策定をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問介護・訪問歯科等、その時々生まれるニーズに対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事への参加支援		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を変更せず同じ医師にかかっています。	かかりつけ医である町内2病院の医師や看護師により、定期訪問診療が実施され、歯科医による訪問診療を加えて利用者への受診支援が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護等の利用。相談しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが同行し家族と連絡を取りながら病院との情報交換に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた時に対応指針をご家族・かかりつけ医・スタッフで話し合いを持ち文書化で対応を明確にしています。	入居に際してのインテークでは、重度化や終末期に向けた方針並びにターミナルケアに際してのホーム指針が説明され、了解を得て確認書が交わされています。後日、必要な場合には医師と家族を交えた話し合いで対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に救急の初期対応訓練の研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員に来て頂き年に何回か訓練を行っています。	消防署の協力を得て、年2回の昼夜想定避難訓練を行っているほか町の災害対応の訓練にも参加しています。ホームでは備蓄品(ヘルメット、発電機、1週間分の非常食など)、冬季対応の非常口周辺ロードヒーティングなどを設えています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意しています。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って敬愛されるという基本理念を尊び、言葉掛けに気配りが見られます。特にトイレへの誘導や入浴に際しての言葉掛けに十分配慮してプライバシーの確保が図られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・意向を常に確認しケアプランにも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	極力希望に沿った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ外出したり、本人の希望に沿った身だしなみ、おしゃれの支援をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と作物を作り、収穫、食事作りなどお手伝いしていただいています。	バランスの取れた献立から調理まで、栄養士1人、調理師3名の資格を有する職員により賄われ、彩りや味付けに優れた食事が提供されています。食事では利用者と職員が一体の楽しい食事の光景を見ることができました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員と相談しながら食事づくりをし食べて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、歯科往診や受診を受け口腔ケアに力をいれています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレでの排泄や自立支援に努めています。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握しながら、適時、それとない声掛けによる誘導でトイレでの排泄が継続できるよう支援が行われています。トイレも1～2階合わせて5箇所を設置され利便性に優れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や飲食物工夫をし可能な限り薬剤に頼らない自然な排便に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1人1人の希望やタイミングに合わせて柔軟に対応し入浴を楽しめるよう努めています。	週2～3回入浴をしていただく設定を行っていますが、希望により毎日の入浴も可能として利用者本位の支援が喜ばれています。利用者4～5名が町内の温泉入浴にも出かけるなど入浴を楽しむ支援も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の時間にあわせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し服薬支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	マージャン・買物・カラオケ等個々の嗜好や楽しみごとがおこなえるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に外出していただいております。行きたい所へ行ける様支援しています。	予め決められた外出ではなく、行く先も利用者本位に決めるなど形にとらわれない外出の支援が継続されています。公園での写真撮影で季節感を満喫する利用者など、それぞれが外気を楽しむ支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は個々でお金を所持し使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話したり、手紙のやり取りが出来る様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型で安心と居心地が良い空間です。	住宅改造型のホームの特色である家庭的な温もりが、玄関、廊下、台所、居間などに見られ、安堵感に満ちた暮らしを可能にしています。緑豊かな中庭を一望できる広い廊下には開花を待ち望むゼラニウムなどの鉢が並び、気持ちが和むゾーンとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のソファや食事席を決めており思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している馴染みの物をできるだけ持参して頂けるよう支援しています。	居室には安全なパネルヒーターが設えられ空間を広く利用しています。停電時の発電装置も完備して非常時に備えています。利用者の使い慣れた、思い出深い整理ダンス、写真などが整然と置かれて、安心の居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方はスタッフ見守りしていますが、できる事はご自分でしていただいております。		